

3. ニーズ調査にみる子どもを 取り巻く状況

ニーズ調査の概要

ニーズ調査は、この行動計画を策定するための基礎的データを収集するために、妊婦、就学前児童の保護者、小学生の保護者、中学生、高校生を対象として実施した。この章では、妊婦、就学前児童の保護者、小学生の保護者の調査結果から、子育てを取り巻く状況を要約した。

<調査の概要>

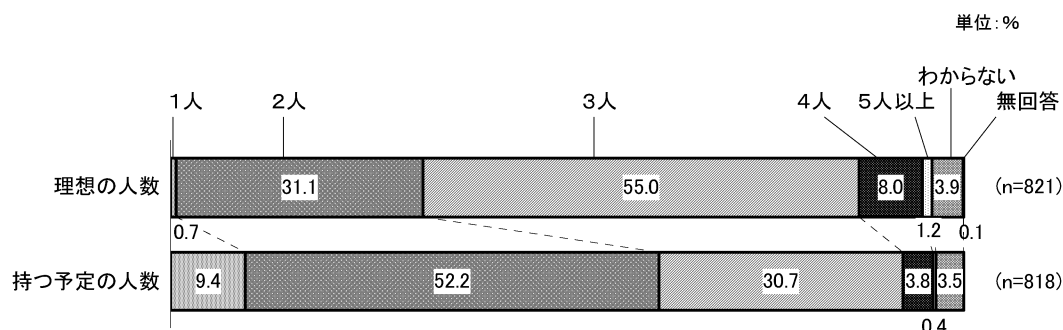
区分	妊婦	就学前児童	小学生
調査対象者	母子手帳受給者	就学前児童の保護者	小学生の保護者
調査方法	郵送	郵送・保育園及び幼稚園を通して	学校を通して
調査地域	壬生町全域		
調査時期	平成 15 年 12 月		
配布数（人）	147	2,619	1,017
回収数（人）	74	1,603	878
回収率（％）	50.3	61.2	86.3

1. 理想の子どもの人数と持つ予定の子どもの人数

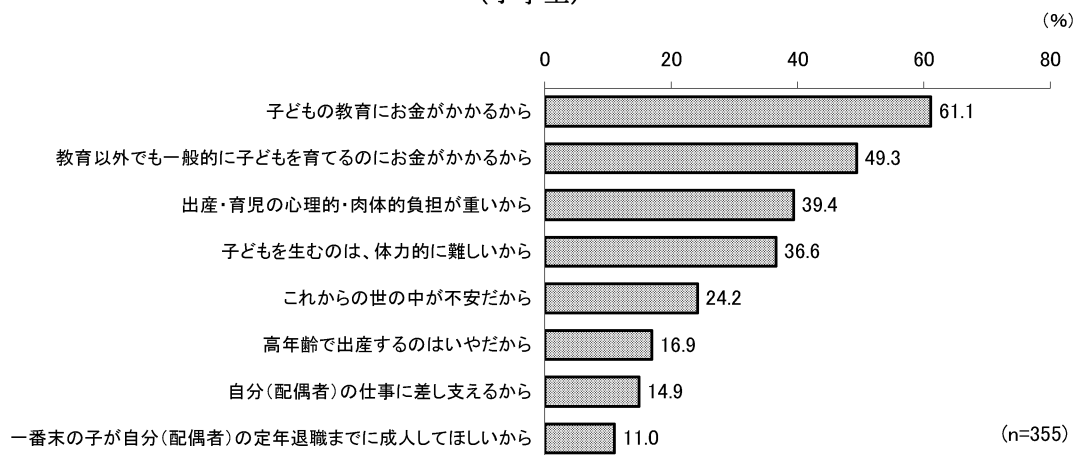
理想の子どもの人数は3人が最も多いのに対して、持つ予定の人数は2人が最も多く、理想よりも持つ予定の人数の方が少なくなっています。その要因は、「経済的負担」と「心理的・肉体的負担」が主な要因となっています。

出生力を高めるためには、経済的負担と心理的・肉体的負担の軽減が課題となっています。

■ 図1. 理想の子どもの人数と持つ予定の子どもの人数 (小学生)



■ 図2. 理想の人数より持つ予定の人数が少ない理由(主な理由) (小学生)



注) 1. 回答者は、理想の人数より持つ予定の人数が少ない人
2. 13項目の内、回答率の高い8項目を表示

2. 子育てに関する悩みや不安

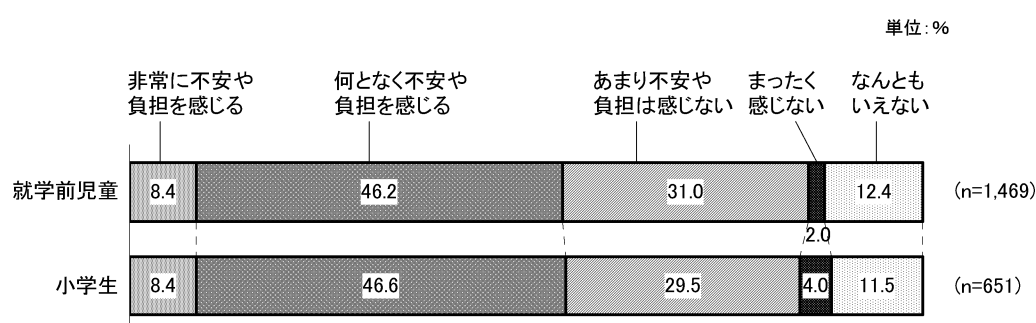
子育てに不安・負担を感じている人は、就学前児童、小学生の保護者とも54%を占め、不安・負担を感じない人よりも20%以上も多くなっています。

就学前児童の保護者が悩んでいることは、「子どもを叱りすぎているような気がする」「病気や発育・発達」が多く、次いで、「子どもとの時間が十分とれない」「子どもの教育」等が多くなっています。

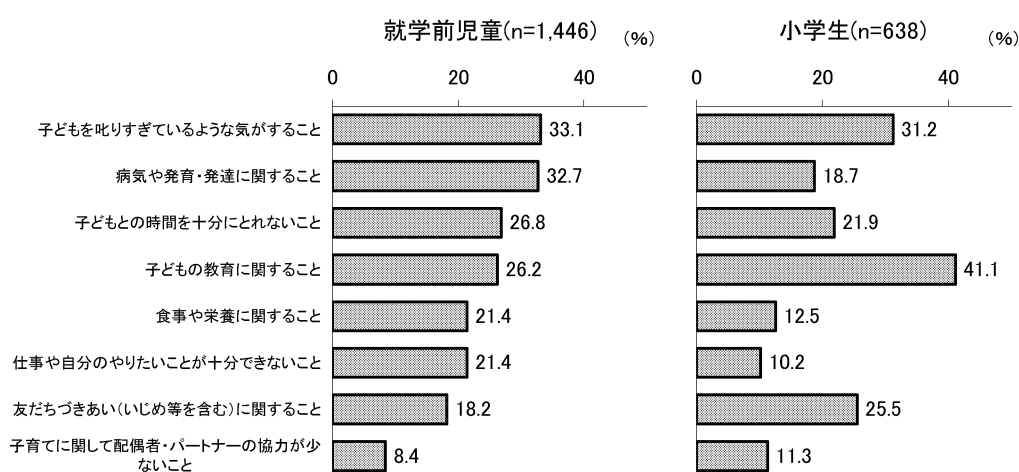
小学生の保護者では、「子どもの教育」が最も多く、次いで、「子どもを叱りすぎているような気がする」「友だちづきあい」等が多くなっています。

相談体制の充実などにより、様々な不安を軽減する対策が求められています。

■ 図3. 子育てに関する悩みや不安の有無 ■



■ 図4. 子育てに関する悩みや気になること(主なこと) ■

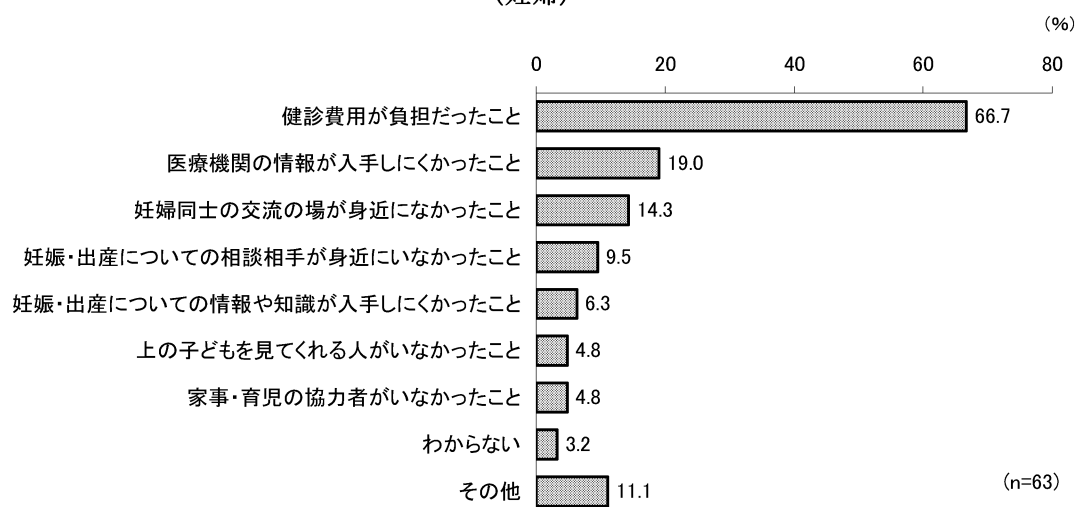


注) 19項目の内、回答率の高い8項目を示した

3. 妊娠・出産で困ったこと

妊娠・出産で困ったことは、「健診費用の負担」が非常に多く、次いで、「医療機関の情報」「妊婦同士の交流の場」となっています。経済的支援が特に強く求められています。

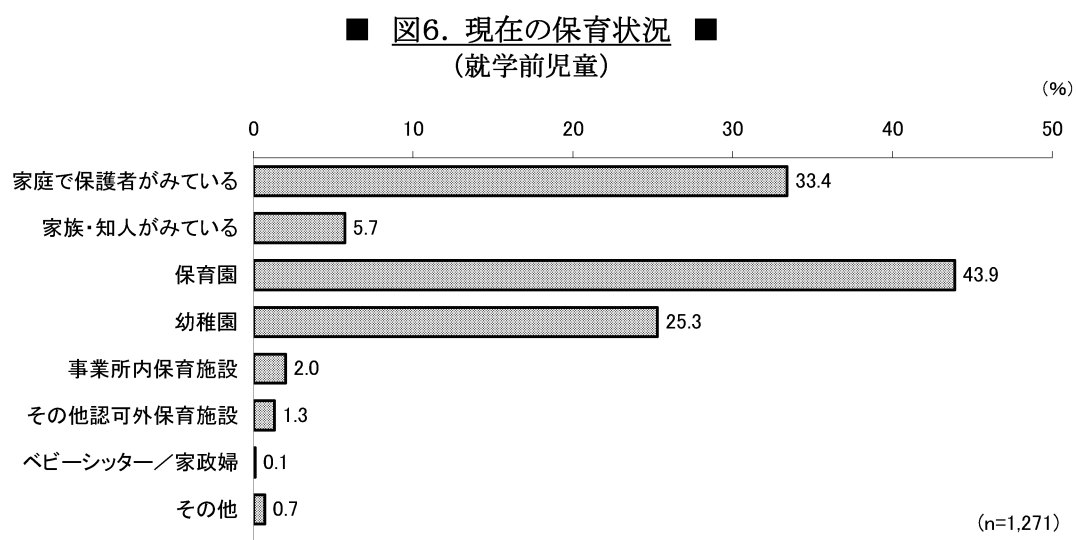
■ 図5. 妊娠・出産で困ったこと ■
(妊婦)



4. 保育サービスの利用

(1) 現在の保育状況

就学前児童の平日の保育は、「保育園」が最も多く、次いで、「家庭で保護者がみている」、「幼稚園」となっています。



(2) 平日の保育サービスの利用希望

就学前児童の平日の保育サービスの利用希望を見ると、「利用したい」が 71.5%と、保育サービスに対するニーズが高くなっています。主に希望する保育サービスは、「保育園」が 63.5%、と非常に多く、「幼稚園」が 28.8%となっています。

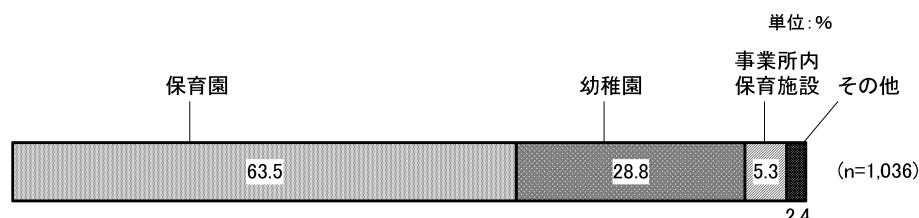
保育サービスを利用したい理由は、「現在就労している」が最も多く、「そのうち就労したいと考えている」、「就労予定がある/求職中である」を加えると、9割近くを占めています。

仕事と子育ての両立から、保育サービスの充実が求められています。

■ 図7. 平日の保育サービスの利用希望 (就学前児童)

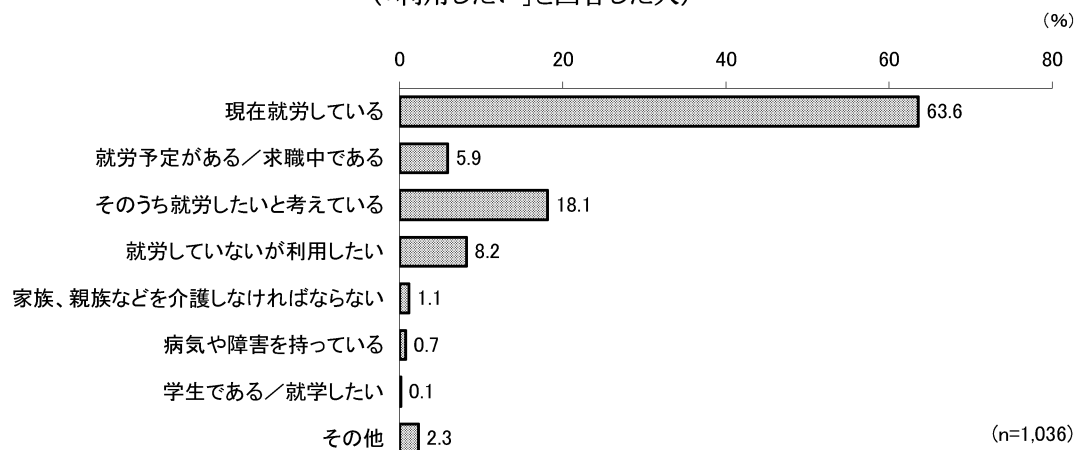


■ 図8. 主に希望する保育サービス (「利用したい」と回答した人)



注) その他は、「ファミリーサポートセンター」(1.5)、「その他認可外保育施設」(0.6)「ベビーシッター/家政婦」(0.3)である

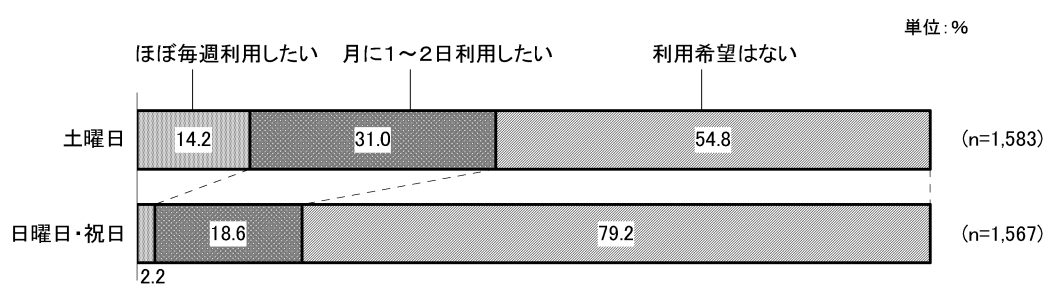
■ 図9. 利用したい理由 (「利用したい」と回答した人)



(3) 土曜日、日曜日・祝日の保育サービスの利用希望

土曜日の保育サービスの利用希望を見ると、「利用したい」が 45.2%となっており、「月に1～2日利用したい」が 31.0%と多くなっています。
日曜日・祝日は、「利用希望がない」が 79.2%と多くなっています。

■ 図 10. 土曜日、日曜日・祝日の保育サービスの利用希望 ■
(就学前児童)



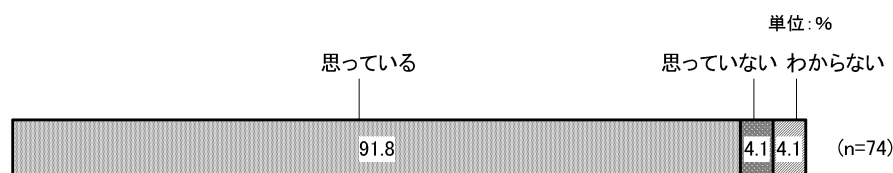
(4) 妊婦の保育園・幼稚園の利用予定

妊婦の保育サービスの利用希望を見ると、「（利用したいと）思っている」が91.8%と、利用希望が圧倒的に多くなっています。

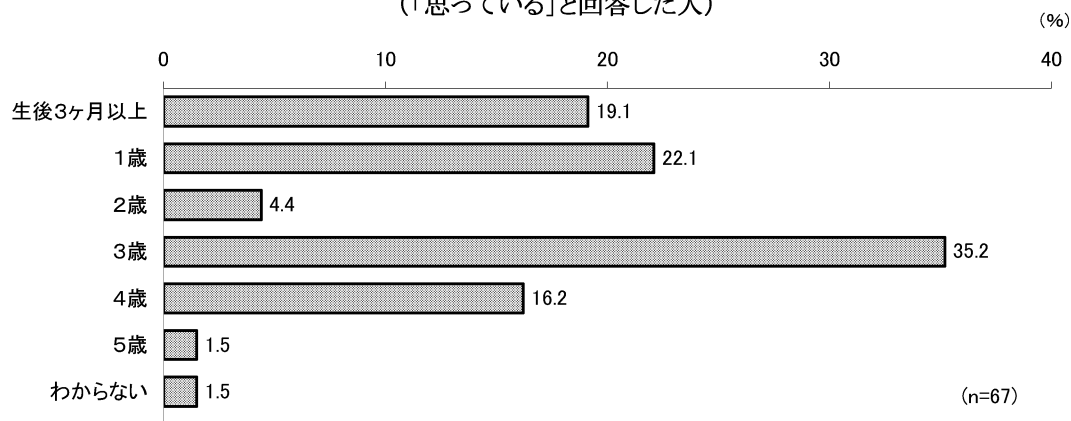
利用予定年齢は、「3歳」が最も多く、次いで「1歳」「生後3ヶ月以上」となっています。低年齢児保育の利用希望が多いことが分かります。

利用したい保育サービスは、「保育園」（53.7%）が「幼稚園」（46.3%）より、やや多くなっています。

■ 図 11. 保育園・幼稚園の利用予定 (妊婦)



■ 図 12. 保育園・幼稚園の利用予定年齢 (「思っている」と回答した人)



■ 図 13. 利用したい保育サービス (「思っている」と回答した人)



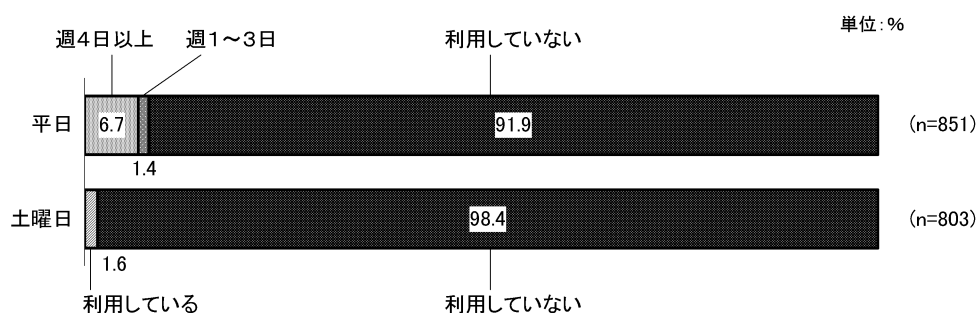
5. 放課後児童クラブ(学童保育)の利用

学童保育の現在の利用は、平日では 8.1%、土曜日では 1.6%が利用しています。一方、利用希望をみると、平日では 25.2%、土曜日では 21.3%が利用希望を持っており、学童保育に対するニーズが、平日、土曜日とも今以上に高いことが伺えます。

利用する日数は、平日では「週 4 日以上」と「週 1～3 日」がほぼ同じですが、土曜日では「月に 1～2 日」のほうが多くなっています。

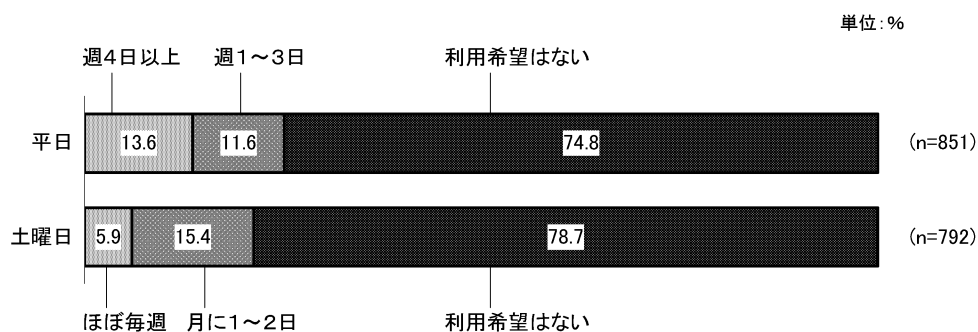
利用理由は、「現在就労している」が圧倒的に多く、仕事と子育ての両立のために、平日はもとより土曜日の実施を含め、学童保育の充実が求められています。

■ 図 14. 放課後児童クラブの利用状況 ■

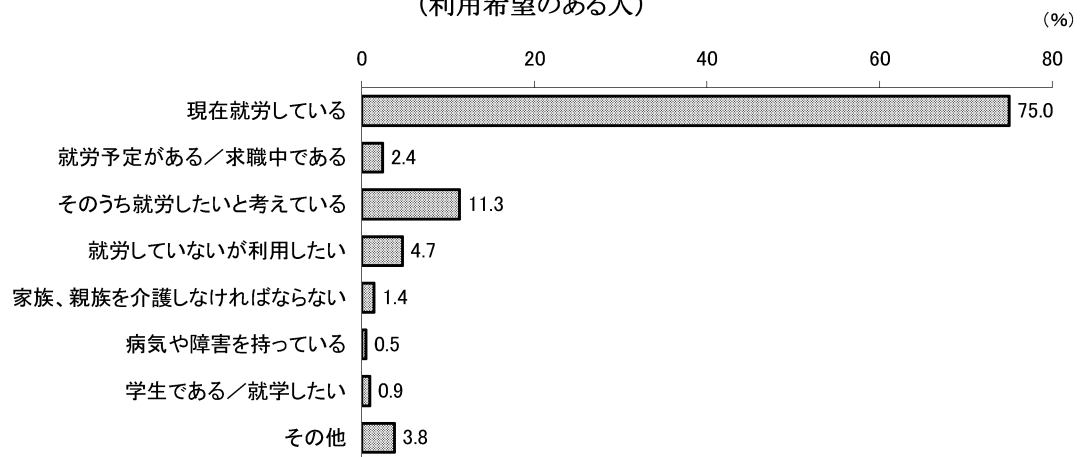


注) 「利用している」の内訳は「ほぼ毎週」(0.5%)、「月に1～2日」(1.1%)である

■ 図 15. 放課後児童クラブの利用希望 ■



■ 図 16. 放課後児童クラブの利用理由 (利用希望のある人) ■



6. 預かりサービスについて

幼稚園の利用者の預かり保育の利用状況は、「時々利用している」(54.9%) が最も多く、その他の利用しているを含むと「利用している」は67.5%と多くなっています。

病気で休んだ経験のある人は、保育園、幼稚園の利用者の内、約9割と多くなっています。

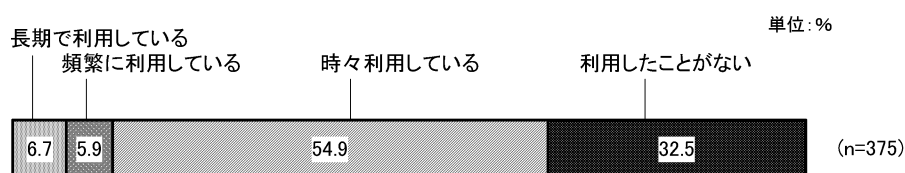
緊急の用事で子どもの面倒を見られなくなった経験のある人は、就学前児童の保護者の半数を占めています。

泊りがけで子どもを預けた経験のある人は、就学前児童、小学生の保護者の1割以上となっています。

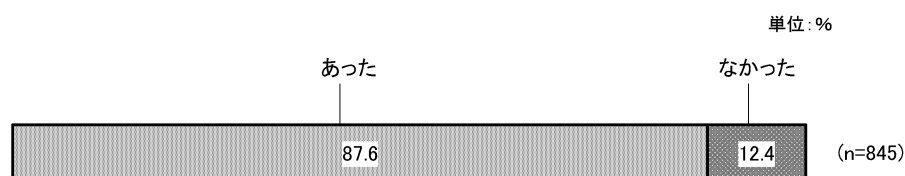
子どもを預けてリフレッシュしたいと思った人は、就学前児童の保護者の半数を占めています。

幼稚園の預かり保育、病後時保育、一時的な保育など、多様な保育サービスの充実が求められています。

■ 図 17. 幼稚園の預かり保育の利用状況 ■
(幼稚園の利用者)



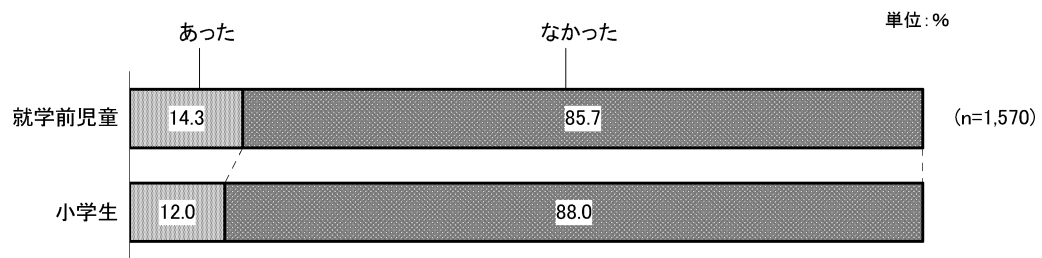
■ 図 18. 病気で、保育園、幼稚園等を休んだ経験 ■
(保育園、幼稚園等の利用者)



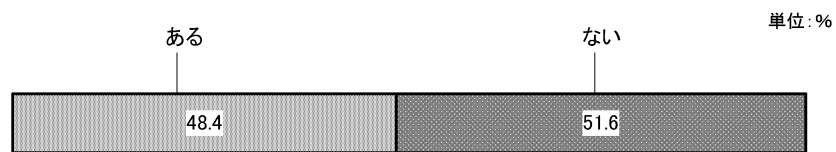
■ 図 19. 緊急の用事で子どもの面倒を見られなくなった経験 ■
(就学前児童)



■ 図 20. 泊りがけで子どもを預けた経験 ■



■ 図 21. 子どもを預けてリフレッシュしたいと思う経験 (就学前児童) ■

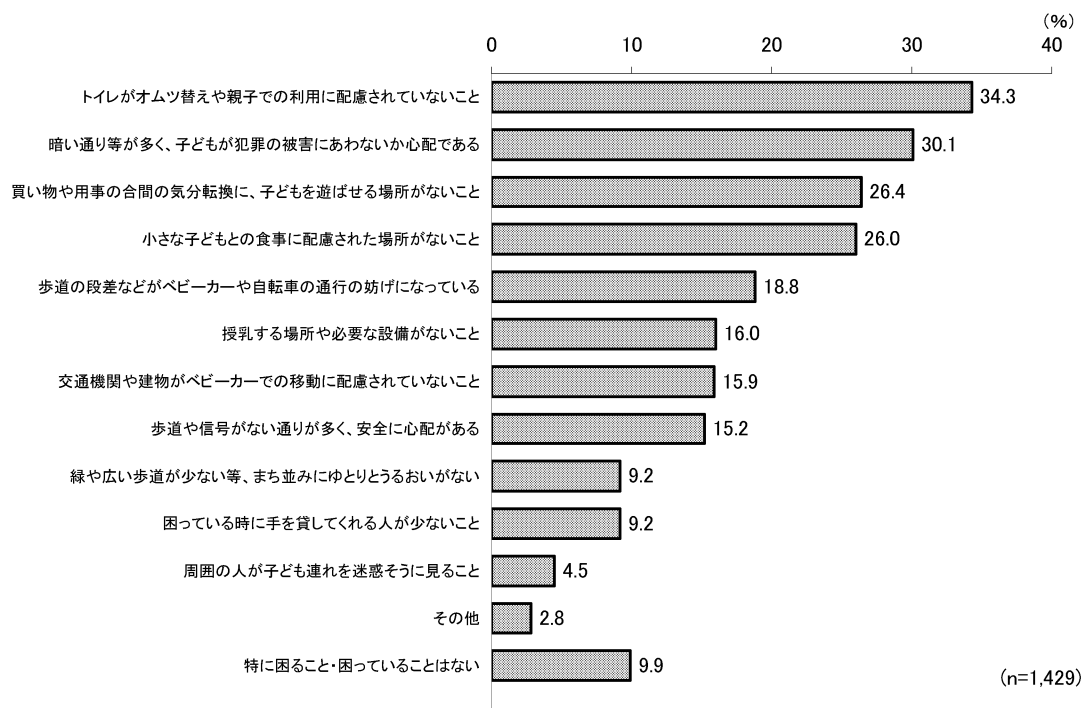


7. 子どもと外出する際に困ること

子どもとの外出の際困ることは、「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない」が最も多く、次いで「暗い通り等が多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配」「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」「小さな子どもの食事に配慮された場所がない」などとなっています。

「特に困る・困っていることはない」は1割と少なく、親子が外出しやすい環境の整備が求められています。

■ 図 22. 子どもと外出する際に困ること ■
(就学前児童)



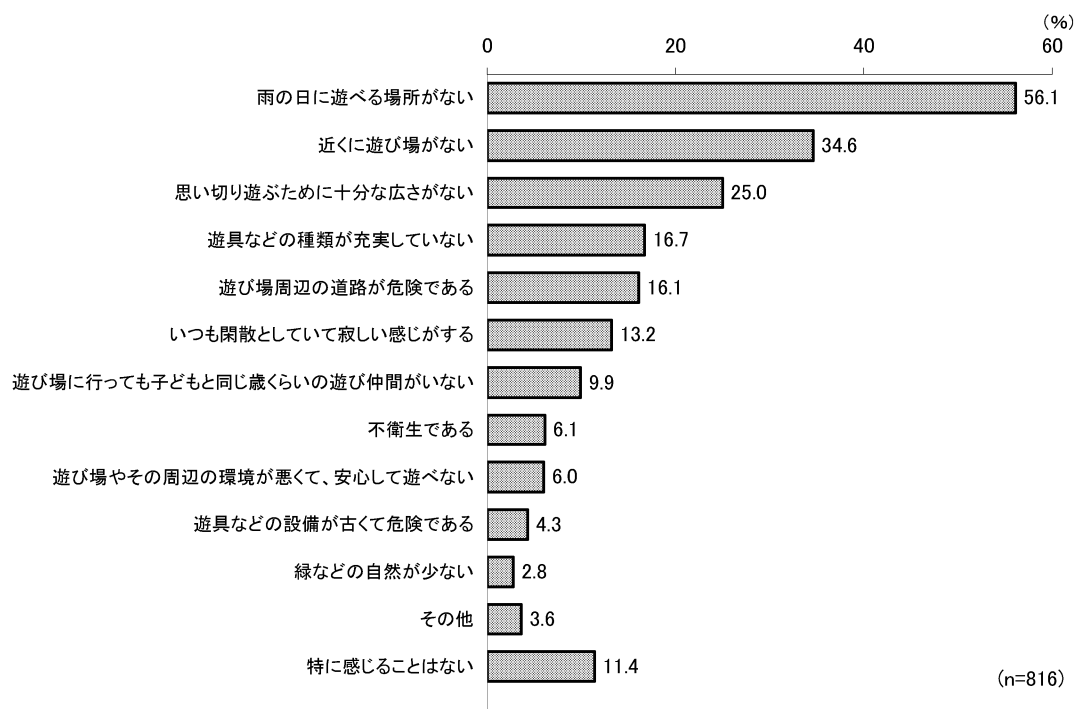
8. 遊び場について感じていること

遊び場については、「雨の日の遊べる場所がない」が最も多く、次いで、「近くに遊び場がない」「思い切り遊ぶために十分な広さがない」等となっています。

「特に困る・困っていることはない」は約1割と少なく、遊び場の整備が求められています。

■ 図 23. 遊び場について感じていること ■

(小学生)

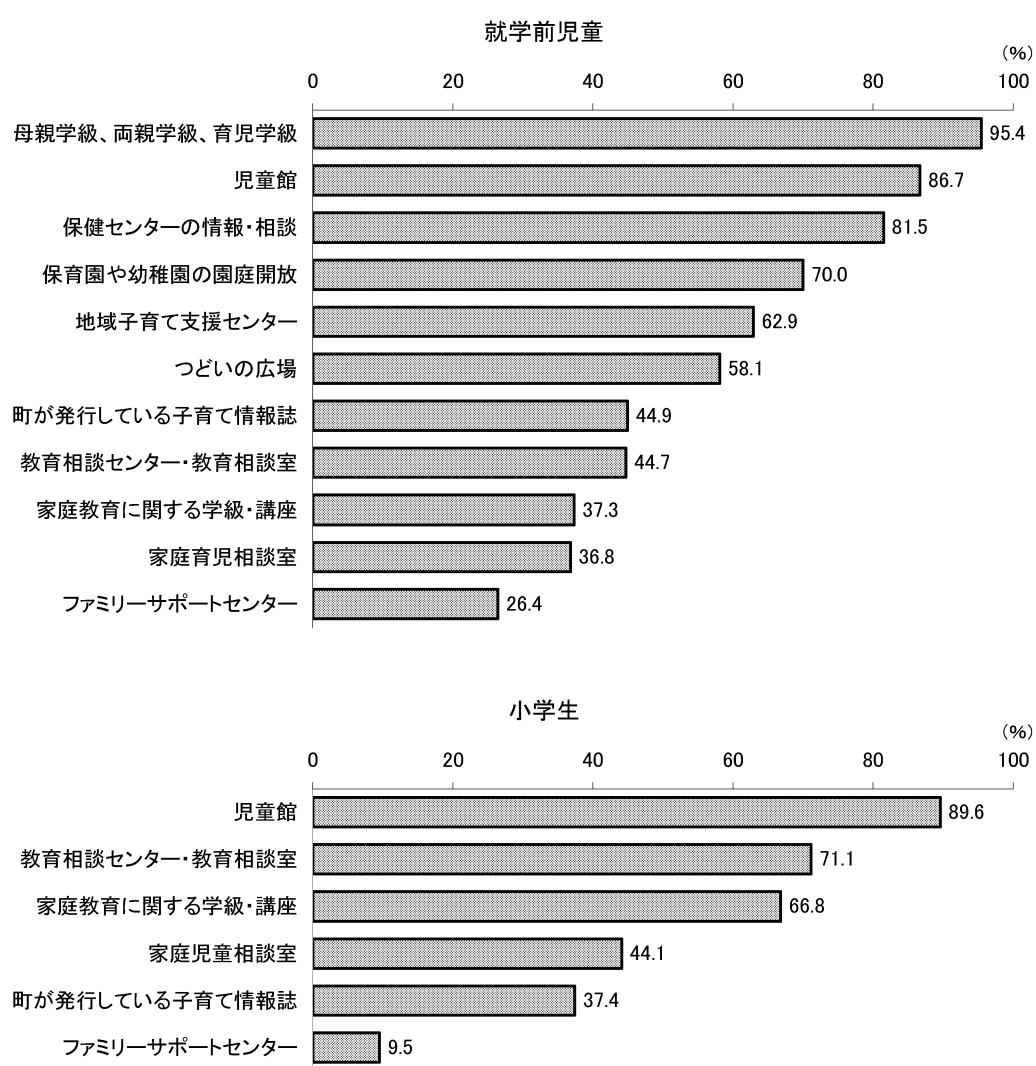


9. 子育て支援サービスの認知

子育て支援サービスの認知度を見ると、「ファミリーセンター」や「家庭児童相談室」「町が発行している子育て情報誌」等の認知度が低くなっています。

より多くの保護者が利用し、安心して子育てしてもらおうという観点から見て、子育てサービスに対する情報提供が更に必要だといえます。

■ 図 24. 子育て支援サービスの認知度 ■



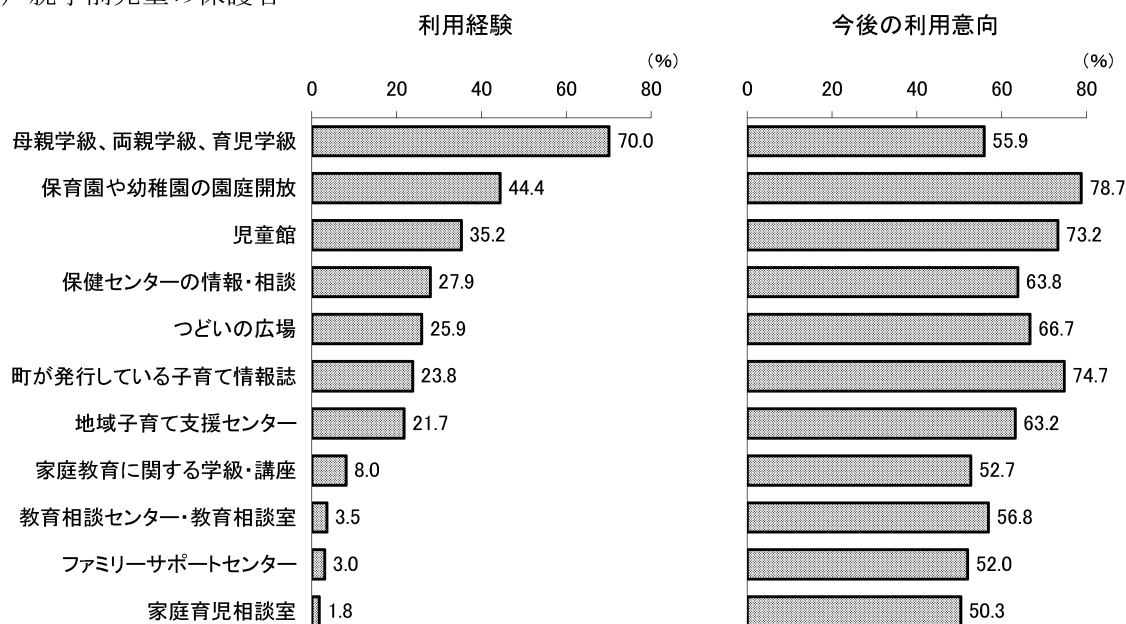
10. 子育て支援サービスの利用経験と今後の利用意向

子育て支援サービスの利用経験と今後の利用意向を見ると、就学前児童の保護者の「母親学級、両親学級、育児学級」を除くいたほとんどが、今後の利用意向の方がかなり高くなっています。特に、就学前児童の保護者の「保育園や幼稚園の園庭開放」「児童館」「町が発行している子育て情報誌」に対する利用意向が高くなっています。

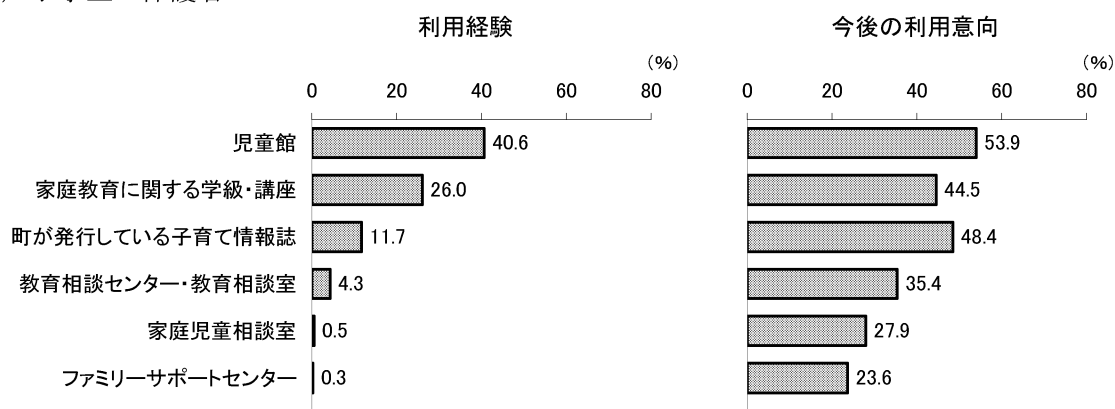
子育て支援サービスに対するニーズが高く、特に就学前児童の保護者のニーズが高いことが伺えます。

■ 図 25. 子育て支援サービスの利用経験と今後の利用意向 ■

(1) 就学前児童の保護者



(2) 小学生の保護者

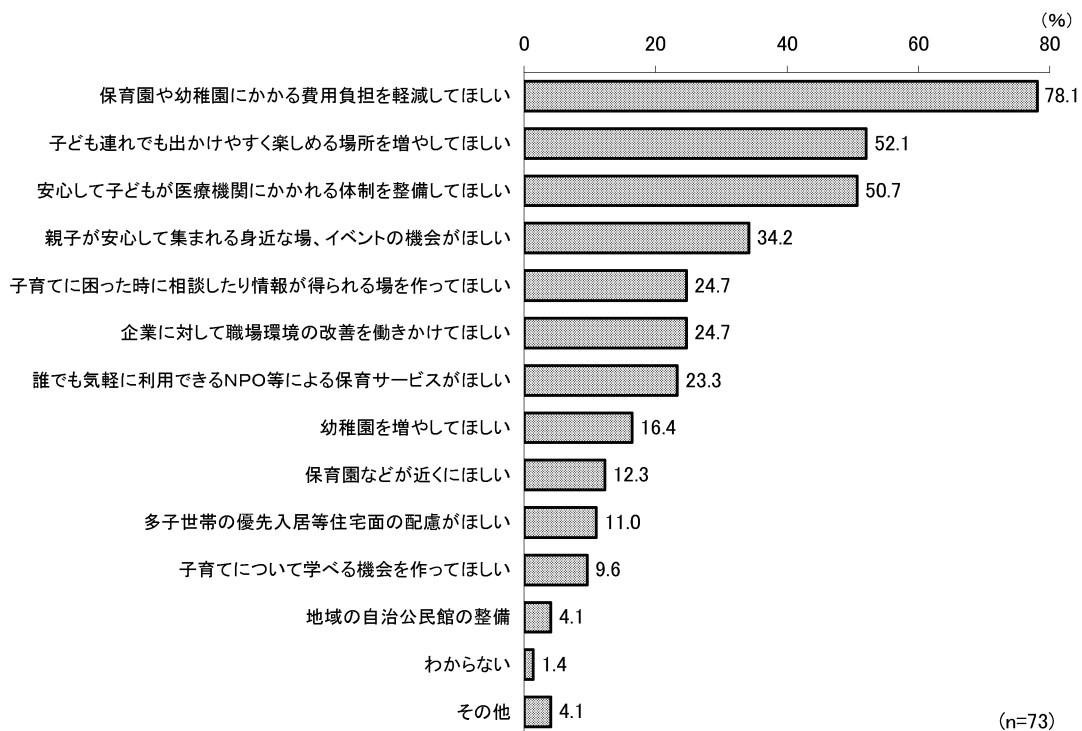


11. 子育て支援に関する町への要望

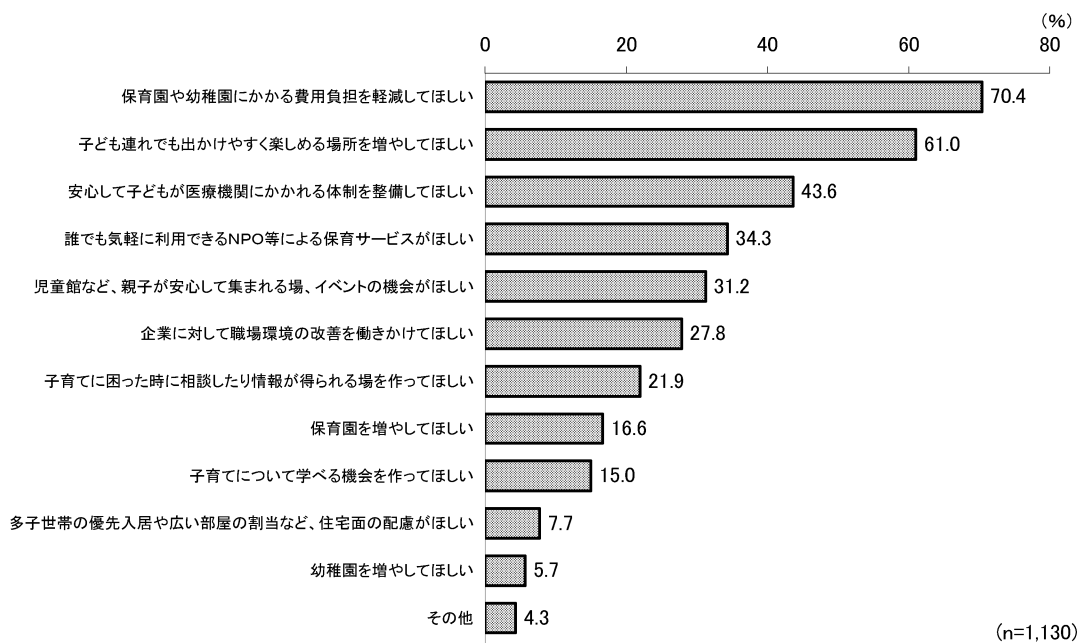
子育て支援に対する行政への要望については、「保育の費用負担の軽減」（就学前児童の保護者、妊婦）が非常に多く、次いで、「子ども連れで出かけられる場所」「医療機関体制の整備」「親子が集まれる場所・イベント」がすべての保護者で多く、就学前児童の保護者では「NPO等による保育サービス」も多くなっています。

様々な支援を求めています。

■ 図 26. 妊婦の要望 ■



■ 図 27. 就学前児童の保護者の要望 ■



■ 図 28. 小学生の保護者の要望 ■

